

苫小牧信用金庫の環境への取組みについて

苫小牧信用金庫の本店所在地である苫小牧市は、道央圏（北海道中心部）に位置し、周辺には「苫小牧港」と「新千歳空港」という北海道の海と空の玄関口を立地環境とする工業都市です。その一方で、市の象徴である「樽前山」を含む支笏洞爺国立公園にも隣接するほか、ラムサール条約登録湿地であり国内有数の白鳥飛来地である「ウトナイ湖」など、自然環境にも恵まれた地域となっております。苫小牧信用金庫ではこうした立地環境のなか、かねてより地域環境の保全・森林緑化・環境に配慮した事業活動に対する取組みを進めており、今後も積極的に実施してまいります。

【とましんアップナイの森林事業（平成9年～）】

森林の保護育成を通じて社会貢献活動を進めるため、平成9年12月に北海道営林局（当時）と60年の分収育林契約を締結し、「とましんアップナイの森林」を開設しました。

関連事業として、毎年秋には、営業地区の社会福祉施設入居者をお招きし「とましん森林の音楽会」を開催しております。（第6回信用金庫社会貢献賞「face to face 賞」受賞、林野庁HP掲載）

【紙資源のリサイクル推進（平成17年～）】

平成17年9月より、紙資源のリサイクル促進を図る趣旨より本店地下に「大型シュレッダー」を導入し、事業活動で発生する紙ごみを一元的に裁断することで情報漏えい防止をはかるとともに、再資源化处理を行っております。

【苫小牧市「クリーンアップ・サポーター制度」への参加（平成18年～）】

平成18年4月に苫小牧市との間で締結した公園花壇の植栽・管理に関する「クリーンアップ・サポーター契約」に基づき、毎年苫小牧駅北口にある「新生公園」花時計の植栽管理を職員参加のもと行っております。

【「第58回全国植樹祭」への参加（平成19年6月）】

平成19年6月に苫小牧東部地域で開催された「第58回全国植樹祭」に役員40名が参加しました。

また、北海道から同植樹祭のイメージキャラクター「芽モリー」の使用許諾を受け、各種ポスター・チラシ等で環境保全・緑化に関する周知を図っております。

【とましん環境宣言・とましんチャレンジ宣言】

平成20年1月、当金庫の事業活動に関わる環境影響を低減するために「とましん環境宣言」をして、「チームマイナス6%」の参加企業として環境活動を推進してきました。

平成23年6月には引き続き「チャレンジ25キャンペーン」に参加、「チャレンジ25宣言」をして地球温暖化防止に努めています。

平成22年6月より「クールビズ」を実施し、翌年23年には「サマータイム」、同年6月には引き続き「チャレンジ25キャンペーン」に参加、「チャレンジ25宣言」をして地球温暖化防止に努めています。

平成26年7月には、地球温暖化防止のため「星に願いを」（電気を消して夜空を見上げよう）をテーマに日本縦断クールアース・デープロジェクト2014に参加し、当金庫のライトアップ施設や役職員家庭の照明を消す活動を実施致しました。

【エコキャップの回収（平成20年4月～）】

ペットボトルのキャップを回収して、リサイクルの益金で恵まれない国の子供のためのワクチン購入代金に充てています。

平成20年度から24年度までの累計で、2,377 kg、ワクチン1,632本分を回収しました。

【「環境対策支援商品」の取扱い（平成20年～）】

お客様に対し環境に配慮した各種製品の購入支援を目的とした「エコチャレンジローン」および「カーローンのエコカー適用金利」を取り扱っております。

【とましんビーチコーミング（平成20年～）】

平成20年より、毎年初夏に「クリーン・アップとまこまいふるさと海岸」事業として、当金庫・関連子会社を含む役職員とその家族の参加のもと、北海道教育大学の学習指導による海岸漂着物研究・清掃活動を行っております。

（地学団体研究会発表、平成25年7月「地学教育と科学運動70号」掲載）

【環境に配慮した新本店の建設（平成23年5月）】

旧本店の老朽化に伴って建て替えた新本店は、環境に配慮したつくりになっています。

- ・外壁を二重のガラス張り（ダブルスキン）構造にし、外ブラインドを設置して、夏期は冷房効果、冬期は暖房効果を高めています。
- ・太陽光発電パネルを設置して、月毎に色を変えて街を明るく照らす壁面のライトアップの電力を賄っています。
- ・屋上を緑化して断熱性を向上させています。
- ・このような取組みが評価されて、CASBEE（建築物総合環境性能評価システム）でAランクを取得しました。

【室蘭工業大学公開講座（平成23年7月・平成25年9月）】

平成20年度より室蘭工業大学との産学連携協定に基づき、時代の趨勢や地域で問題となる事象などをテーマにして、一般市民を対象に公開講座を開催し

ています。

平成 23 年度は「地球温暖化問題に取り組もう」をテーマに 5 人の講師が、また平成 25 年度は「低炭素社会へのシナリオ」をテーマに 4 人の講師が、それぞれの専門分野から講義しました。

【とましん地域活性化フォーラム「再生可能エネルギーを考える」(平成 24 年 5 月)

東日本大震災原発事故以来、国民の生活や企業活動を支えるエネルギーの確保が喫緊の課題となっています。

再生可能エネルギーの現状や今後の展望などについて、各方面からそれぞれの専門分野の先生をお招きして、再生可能エネルギーの将来を聴講者の方々と共に考えました。

(パネリスト)

- 経済産業省北海道経済産業局 (北海道の再生可能エネルギーの現状)
- 北海道大学 (雪氷エネルギー)
- 室蘭工業大学 (地熱発電)
- 苫小牧工業高等専門学校 (太陽光発電、風力発電)

(コーディネーター)

- 信金中央金庫 地域中小企業研究所